

平成 28 年度外部評価実施状況について

(平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月)

平成 28 年度の外部評価の実施状況は、次の通りであった。

(1) 外部評価員 7 名

稲田 奈緒美	舞踊評論家、独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムオフィサー（舞踊分野）
稲村 太郎	ニッセイ基礎研究所 社会研究部門 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員
恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 常務理事
楫屋 一之	日本大学芸術学部演劇学科 非常勤講師
竹内 孝宏	青山学院大学総合文化政策学部 教授
松平 あかね	音楽評論家、声楽家
水田 堯	上野学園大学グローバル教養コース 客員教授

(2) 評価方法

- 重点文化事業スケジュール[表 1]を中心に、外部評価員が実地見学を実施。
- 年度を通じた総合的な評価として、外部評価員と職員とが出席する「事業評価会議」を開催し、意見交換や議論の上、当該年度の事業評価を総括。
- 事業評価会議
平成 29 年 7 月 27 日（木）に開催
評価員出席 6 名
当財団出席 副理事長、専務理事
理事（事務局長、県民ホール館長、芸術劇場館長） 事務局
- 財団理事会報告
評価結果を、平成 29 年 11 月 6 日（月）開催の第 1 回臨時理事会に報告。

[表 1] 平成 28 年度 重点文化事業スケジュール

3 館合同プロジェクト	5 月 11 日(水) ～29 日(日)	3 館合同オープンシアター2016
芸術監督プロジェクト	9 月 23 日(金) ～10 月 9 日(日)	塩田千春展×ダンス・音楽プログラム
神奈川県民ホール	10 月 29 日(土)	一柳慧プロデュース公演 セッポ・キマネン チェロ・リサイタル ー 白夜の国・フィンランドの至芸 ー
	12 月 19 日(月) ～平成 29 年 1 月 21 日(土)	5 Rooms-感覚を開く 5 つの個展
	平成 29 年 3 月 18 日(土) ～19 日(日)	W. A. モーツァルト作曲 オペラ『魔笛』全 2 幕 ドイツ語上演 字幕付 日本語ナレーション
KAAT 神奈川芸術劇場	4 月 12 日(火) ～4 月 30 日(土)	KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース 「夢の劇 -ドリーム・プレイヤー-
	9 月 6 日(火) ～22 日(木祝)	KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース 「マハゴニー市の興亡」
神奈川県立音楽堂	8 月 10 日(水) ～13 日(土)	三ツ橋敬子の「新☆夏休みオーケストラ！」
	9 月 6 日(火)	音楽堂アフタヌーン・コンサート 山田和樹指揮「東京混声合唱団」特別演奏会
	10 月 1 日(土)	音楽堂・伝統音楽シリーズ 「ひびき、あたらしー雅楽」

平成 28 年度評価結果（概要）

1. 平成 28 年度重点テーマ「普及啓発活動の成果（劇場法への対応、顧客創造）」について

県民ホール	個別の目標や施策	人々が芸術文化に対する関心、理解を深めること等を目的に大小ホールを使用してさまざまな普及事業を実施する。
	外部評価員意見 (主な課題等)	<p>○親子で感動を共有する機会を提供できたことは、長期的視点に立てば必ずホールに還元される。【オープンシアター】</p> <p>○カルチャーセンター等ではなく、「県民ホール」の講座としてのあり方も意識し、内容を見直すことも必要ではないか。【舞台芸術講座】</p> <p>○多様な普及啓発活動の企画をさらに有機的に構造化し、効果をより生み出すことを今後も期待したい。【普及活動全体】</p>
芸術劇場	個別の目標や施策	キッズプログラム、オープンシアター、舞台芸術講座、地域連携等の実施等。
	外部評価員意見 (主な課題等)	<p>○「わかったさんのクッキー」全国上演は KAAT のプロデュース力の高さを表す大きな成果。その上で、なぜ全国で上演ができたかという総括、分析が今後にとって重要。【キッズプログラム】</p> <p>○「オープンネス」を KAAT 内部で完結させるのではなく、近接する県民ホールとの連携など、近隣エリアの回遊性を触発する等の観点から、劇場を都市空間そのものにかけていくという方向性が試みられてもよいのではないか。【オープンシアター】</p> <p>○公立劇場のスタッフを対象とした講座で、多数の参加者を集めることができたのは、KAAT の業界での評価と注目度の高さを示すもの。</p>
音楽堂	個別の目標や施策	夏休みオーケストラ、オープンシアター、メサイア未来プロジェクト、アウトリーチ活動等の実施。
	外部評価員意見 (主な課題等)	<p>○普及啓発活動は費用対効果は薄い、「よいものはよい」ということを強くアピールして継続していく努力が必要。【夏休みオーケストラ】</p> <p>○新たな客層開拓に繋げる視点が大切。継続性と内容の深堀が重要な時期で、集客の努力とともに今後の進化に期待。【オープンシアター】</p> <p>○普及事業の非採算性を考えれば公費投入の意義を明確にして、エビデンスとノウハウの蓄積や効果測定を意識して取り組むことや、県域への広がり視野に置くことも大切。【普及啓発活動全般】</p>

2. 経年評価項目

(1) 定量的評価 外部評価員意見（主な課題等）

県民ホール	<p>○事業収入比率 30%について、将来的に国や自治体からの助成が増えることを期待するのが難しくなるとしたら、どのように対応していくのか。【文化事業】</p> <p>○成果は評価できる。成功要因を分析して継続性のある要素の継続や、年度による特殊原因を今後の経営計画に反映されたい。【施設運営】</p>
芸術劇場	<p>○駐車場の利用が好調であったとのことだが、短期的な収入だとすれば今後の対策も必要では。【施設運営】</p> <p>○規定に則った施策ということだが、特定の団体への長期貸館は、公立文化施設の公共性との関係について継続して説明していく必要がある。【施設運営】</p>
音楽堂	<p>○完売が期待できる公演をいくつか企画することにより、その収益を実験的な取組に充当できるというプラス思考で考えてよい。【文化事業】</p> <p>○定量的に目標値が達成されており、運営努力が評価できる。【施設運営】</p>

※評価指標

- ・文化事業：①主催事業のチケット販売率、②主催事業の事業収入比率（事業収入／事業総支出）
- ・施設運営：①来館者数、②ホール利用率、③利用料金収入

(2) 定性的指標 外部評価員意見（主な課題等）

県民ホール	文化事業	<p>○年末の定番公演として定着し成果を上げているが、新しいものを大胆に取り入れていくことも、次の10年へとつなげる大切なコンセプトである。【ファンタスティック・ガラコンサート】</p> <p>○勅使河原三郎の起用は賛否両論あろうが、オペラ演出の新たな可能性を示したことなど、今後の展開に繋がる。【共同制作オペラ】</p> <p>○先進性や芸術性の高さが小ホールの個性に繋がる。「コンテポラリー音楽の殿堂である」というような小ホールの個性化についても、意識して取り組んでいったらよいのではないか。【小ホール事業全般】</p>
	施設運営	<p>○多様な情報発信やサービスの向上、社会課題への取組とあわせ、開かれた劇場としてのクオリティを高めながら、自主事業によって個性を発揮できるよう、今後も柔軟な姿勢を継続してほしい。【貸館事業等】</p> <p>○県下の他劇場の牽引役となるインクルーシブで丁寧な取り組みを今後も期待する。【施設維持管理】</p>

芸術劇場	文化事業	<p>○芸術監督のアーティスティックな創造性が反映された事業を継続していくことが、劇場としての個性を形成し、観客から信頼されることにつながる。【芸術創造事業全般】。</p> <p>○TPAMはすっかり定着したが、効率性と余裕を両立させるプログラミング、アクセスの確保、丁寧な情報発信など、関係機関との連携をさらに図ることを希望する。【国際芸術交流創造事業】</p> <p>○財団で企画したものが横浜だけでなく、広く県内のホールで行われることは、ソフト不足の地域にとってありがたいこと。こうした活動がシステム化され、さらに発展していくことを期待。【地域等連携事業】</p>
------	------	---

芸術劇場	施設運営	<p>○観光地としての立地（元町、中華街、山下公園、横浜港、みなとみらい、関内等）を活用し、芸術鑑賞を観光の一環に組み込む連携策について、時代の流れも踏まえて考えてはどうか。【地域活性化】</p> <p>○関係機関等と連携を蜜にして、多様なインクルーシブ活動を実施し、オリパラ後のレガシーが残るような長期的視点を確保して取り組んでほしい。【バリアフリー・インクルーシブ対応】</p> <p>○貸館事業は安定した収益確保に欠かせないが、KAATの個性・特徴を損なわない選択や、来場者の劇場自主事業への誘導、地域との連携などを、今後も慎重かつバランスよく行ってほしい。【貸館事業】</p>
------	------	--

音楽堂	文化事業	<p>○個々の事業については賛否両論があるだろうが、その検証にあたっては、むしろ1年間を単位とした俯瞰的な視点が有効。【「木のホール」音楽堂で聞く上質な公演】</p> <p>○学校、音楽団体、NPO法人との協力関係も着実に構築されているようであり、ノウハウの蓄積を生かしていることは評価できる。【子ども・青少年への教育的・普及的なプログラム】</p> <p>○音楽堂の建築と都市形成上の魅力の発見は、顧客拡大や施設の将来へ向けた価値を生む活動。横浜市や地域とも連携して、その魅力をエリアと共に発信して欲しい。【音楽堂・建築の魅力再発見プロジェクト】</p>
	施設運営	<p>○老朽化した施設のハード面でのマイナス点を、人的対応によって補う努力がなされている。音楽の発表、鑑賞の場としての親しみやすさと、建築の文化資源としての誇りを、地域の人々に幅広くアピールすることを継続してほしい。【県民の多様な文化活動の場の提供】</p> <p>○前川建築、木のホールの魅力が培ってきた顧客との信頼関係をベースに、今後の改修の方向を探ることを期待。併せて、少子高齢化社会を含めた社会的包摂の視点や環境共生、アクセスの改善も課題となるだろう。【施設維持管理】</p>

(3) 広報、販売促進等の共通業務の一体化の考え方

三館全体	広報	<p>○イベントの一次情報の入手は高齢化予備軍もネットが主体の時代。今後はミレニウム世代が活躍する時代。広報戦略に大きな判断が必要かもしれない。</p> <p>○多様なニーズに応えるためにも、3館合同の広報がさらに充実することを期待。また、ジャンルを問わない観客のニーズに応えるためにも、総合的な広報誌は重要。</p>
	かながわメンバーズ	<p>○宝塚や劇団四季の顧客を財団側に取り込んでいくなどの工夫をしてほしい。</p> <p>○メルマガは重要なツール。タイトルで目をひき付け、最後までスクロールして読ませるような工夫を重ねてほしい。</p>
	団体販売	<p>○社会課題の解決にもつながるような、団体、機関との連携も検討してほしい。</p> <p>○海外からの観客獲得は是非視野に入れるべき。海外からの購入が意外に簡単だと思ってもらえれば、今後も利用が増える可能性がある。</p>
	資金調達	<p>○3館とも日本の芸術文化を担う基幹ホールとして位置づけが定着。それに応じて評価は厳しくなり、説明責任も重くなることへの配慮が必要。</p> <p>○クラウドファンディングは積極的に活用すべき。資金調達のみならず、宣伝広告という意味合いもある。</p>